

1 学校として目指す授業

1人1台の端末を活用した個別の学びと協働的な学びの一体的な充実

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (中学校3年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<p>調査結果(東京都の平均正答率と比較) 国語+5%、数学+7%、英語+8%</p> <p>【国語】ほとんどの問題の正答率は高いが、自分の考えをまとめる問題については無解答率が上回っていた。 【数学】すべての問題の正答率は高いが、無解答率が10%を超える問題が6問あった。 【英語】ほとんどの問題の正答率は高いが、自分の考えをまとめる問題については無解答率が高かった。</p> <p>・学習状況の調査(東京都、全国との比較) 「1・2年生のときに受けた授業で、ICT機器を使用した頻度」が東京都・全国と比べ極端に少なかった。</p>	<p>・(東京都「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の値と比較) 「学校に行くのは楽しい」+2.0% 「将来の夢や目標を持っている」+3.9%</p> <p>以上の結果から、中学校生活や将来について前向きに考えていることがわかる。 ・「学校の授業時間以外にICT機器を勉強のために使用する」生徒は東京都・全国と比べ多いことがわかる。</p>

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析

<p>・学習に対し、個人で努力する意識が高いが、みんなで学ぶ楽しさを感じている生徒が少ない。 ・学習の動機において、マイナスの意識を持っている生徒が2~3割いる。また、「できない」と感じている、「やらない」と回答した生徒が2~3割いる。イコールと言えないが、学習に対し工夫や改善が行われていない生徒が2~3割いる。 ・他者と考えを交流しながらの学習では、5割の生徒が、自分の思っている意見を言えていない(控えている)ようである。また、4割の生徒が、他者の意見について深く考えることができていないようである。 ・学年を増すことに、塾など家庭での学習に対する意識が高くなっている。 ・数英の少人数および習熟度について生徒は、分かれて行うことに対し(「よい」「どちらかといえばよい」)92%である。また、成果(わかるようになる)ことに対して(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)82%である。このことから数英の少人数および習熟度に期待を持っている生徒が多い。</p>

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
<p>資料名 令和5年度 学校評価アンケート(前期)</p> <p>本調査は、所属する生徒と、その保護者に対して行った。授業については、自分で考えたり選んだりする場面があると感じている生徒が全体の8割を占めていることが分かった。また、授業のテーマを意識し、学習に取り組んでいる生徒は約9割という結果となり、主体的な学習の取り組みが促進されていると分析される。</p>

3 生徒の学力・学習状況等の課題

<p>・生徒は、授業で端末を活用していない意識が高いので、教員は校内研修等でスキルを上げ、各教科、端末使用を最適化することが必要である。 ・与えられた課題をこなすことができる生徒が大半であるが、自ら課題を発見したり、解決方法を模索することを苦手としている生徒が多い。課題があったときに自ら考え実行できる力の育成が必要である。 ・話し合い活動(学習)等から、他者の意見を聞くことはできているが、発言された意見等について、深く考え結論まで行きつく生徒が少ないようである。自己肯定感や他者理解を高める支援(指導)が必要である。</p>
--

4 学校全体の授業改善の視点

<p>・生徒一人一人に、学習の意義を把握させ、授業で1人1台の端末を最適に活用しながら、生徒自ら学習改善が行える力の育成と、他者理解のもと自分の意見を伝えられる力の育成の工夫</p>

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	<p>・生徒が理解しやすい例示を行うことで、自ら進んで学習に向かう力を身に付けさせる。 ・各単元ごとに身に付けた力を活用する場面を意図的に設定し、学習に対する達成感をもたせる。</p>	○	<p>・ICTを活用して、映像や画像等の資料を提示することでイメージ化を図り、意欲を高める。 ・話し合い活動を積極的に進行。</p>	◎	<p>・習熟度別少人数授業の利点を生かし、一人一人の理解度を把握すると同時に、演習時間を確保して、基礎基本事項の定着を図る。</p>	○	<p>・自然の事物・現象に進んで関わる時間をなるべく多く設定し、実験観察の結果から問題を見いだす力を身に付けさせていく。</p>	◎	<p>・音楽に興味をもち、学ぼうとする気持ちの弱い生徒が多く見られるので、興味をもてる教材選び、絵や図、端末からの映像を使用したわかりやすい説明を心掛け、授業への集中力を高める。</p>	○	<p>・生徒が理解しやすいよう、手順の説明を丁寧に行う。その際にICT機器を活用し、イメージしやすいように工夫する。</p>	○	<p>・ICT機器や映像や画像の資料を活用し、視覚的な支援を行う。誰もが理解し、自主的に行動できる指導を行う。</p>	◎	<p>・実物やICTを利用した映像などの提示により、基礎的な知識・技能の理解と定着を助け、課題に取り組む意欲につなげる。</p>	◎	<p>・少人数制授業の利点を生かし、個に応じた指導を行い学力を定着させていく。 ・2年後のスピーキングテストでの「話す力」伸長のため、帯活動を活用し、単なるインプットではなくアウトプットの練習を行っていく。スピーチ等の一方通行だけでなく、インタラクションの機会を意図的に設定する。</p>	○	<p>・一人一人が考え、自分の思いを他者に伝えられるように、ICT機器を活用しながら授業を展開する。ICT機器の活用については、音読機能、アンケート機能(集計機能)、ワークシートや資料のデジタル提示、映像等、テーマをより把握しやすいようにする。</p>	◎
2 学年	<p>・自己の学習を振り返り、自分の課題を見つけることで学びに向かう力を身に付けさせる。 ・身に付けた知識を日常の言語活動にも応用させることで、思考力や表現力を身に付けさせる。</p>	◎	<p>・課題に沿って、自ら調べたり、聞いたりしたことをまとめる作業を意図的に設定する。 ・話し合い活動を積極的に進行し、多角的な視点を育成する。</p>	◎	<p>・習熟度別少人数授業の利点を生かし、個に応じた指導や演習を実施することができているが、「思考・判断・表現力」の観点の課題を解決するため、演習時間の確保を増やしていく。</p>	○	<p>・学ぶこと自体が楽しいと感じている生徒が少ない。導入や発問を工夫し、身近な事象と関連づけ、課題設定や計画を個人で行うなど主体性を育てていく。</p>	○	<p>・苦手意識から鑑賞活動、表現活動ともに、楽しさを感じられない生徒がいるので、興味をもてる教材選びや具体的な説明を心掛け、振り返りカードなどで自信をもたせる声掛けをする。 ・表現活動において、表現方法を自ら考え工夫し伝える力を身に付けさせるために、意見交換を通して、より深く考える時間を取り入れる。</p>	○	<p>・作品制作において、材料や技法の特徴を生かす工夫や、自分で考えたアイデアを取り入れる姿勢をより伸長させるため、作品の構想を練る時間を確保する。</p>	○	<p>・活動の中でICT機器を活用し、自らの課題を発見できるようにする。また、改善のための練習方法を組み立てられるような力を身に付ける。</p>	◎	<p>・製作したものを実際の生活で使用することにより、有用感を育て、他の課題にも意欲的に取り組めるようにする。ICTを利用した製作方法の示範により、作業の効率化を図る。</p>	◎	<p>・少人数制授業の利点を生かし、個別に指導する時間をとることができているが、文字表現力に課題が見られる。そのため、帯活動等で自己表現の時間を増やし、文字に書き起こす時間を増やす。</p>	◎	<p>・一年次の話し合い活動を向上させる授業を展開する。ICT機能でアプローチすることの継続と、グループで活発な話し合いが行えるよう、充実した資料の提供と教材研究(発問)の充実を行う。</p>	◎
3 学年	<p>・学習目標と照らし合わせ、自己の学習を見直すことで学びに向かう力を身に付けさせる。 ・身に付けた知識を日常の言語活動にも応用させ、その姿勢を将来に生かせるようにする。</p>	◎	<p>・複数の資料の中から、必要な内容を自ら選択し、考察する活動を意図的に設定する。また、自分の意見を他者に伝える時間を作る。</p>	◎	<p>・演習時間を確保し、知識・技能の観点における学力の向上がみられる。話し合いや教え合いといった活動を増やし、思考・判断・表現の観点の向上を目指す。</p>	◎	<p>・自然の事物現象について深く考えたり、今までの探究の過程を振り返ったりする対話的な活動を多く設定していく。</p>	○	<p>・歌唱などの表現活動において、表現方法を自ら考え工夫し、伝えることのできる力を身に付けさせる。そのために、曲想記号や作曲者の想いなど、意見交換を通してより深く考える時間を取り入れたり、端末からの映像などを活用し題材に興味をもたせる。</p>	○	<p>・タブレット端末を利用し、作品の構想を練ったり参考資料を探したりすることで、生徒自身のもつ完成イメージを明確にし、制作に活かす。</p>	○	<p>・ICT機器を活用し、課題に応じた練習を組み立てたり、生徒同士で話し合いを行いながら、技能を高められる力を身に付ける。</p>	◎	<p>・体験的な活動をできるだけ多く設定し、基礎的な知識を理解しやすいように工夫する。また、人との関わり方についての考えを深める。</p>	◎	<p>・少人数制授業の利点を生かし、個に応じた指導を行い学力向上を図ることができた。自分の考えを伝える力を伸ばすために、考えや意見を発表する機会を増やす。</p>	◎	<p>・一、二年次の授業で学んだことを日常生活により具現化できるように授業を展開する。話し合い活動(協働学習)において「ジグソー形態」等を活用しながら、多面的に物事を見て・考え(判断し)・行動できるようにする。</p>	○

【授業改善推進プランの活用法】

- 「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
 - 「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
 - 「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
 - 「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
 - 「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施